

ブロードバンドサービスに関するユニバーサルサービス制度における コスト算定に関する研究会（第3回） （ご説明資料）

KDDI株式会社

2023/11/17

目次

■ ヒアリング事項に対する弊社意見

検討事項（１）標準判定式が前提とするネットワークの範囲

検討の視点 1 1（海底ケーブル部門コストの算定方法）

検討の視点 1 2（設備利用部門コストの算定方法）

検討事項（２）標準判定式を構築するために必要となる入力値

検討の視点 1 3

（参考）地域事情に応じた耐用年数の違いについて

検討事項（1）標準判定式が前提とするネットワークの範囲

検討事項（１）標準判定式が前提とするネットワークの範囲

検討の視点 1 1（海底ケーブル部門コストの算定方法）

- ✓ 海底ケーブル部門コストの算定について、どのように算定すべきか。総務省の調査検討の結果を記載すれば、次のとおりである。

$$\text{海底ケーブルのコスト} = \text{海底ケーブルの亘長} \times \text{海底ケーブルの亘長当たりの保守維持費用}$$

弊社意見

- 海底ケーブル部門コストの算定について、上記考え方で問題ないと考えます。
- 今回は、時間的制約も踏まえ、LRICモデルの流用以外の方法で算定する必要がありますが、LRICモデル以外でコストを算定することで、交付金規模が肥大化し、国民経済全体の負担が増大する場合には、改めて、LRICモデルの改修等でコスト算定することができないか検討することが必要です。（「検討の視点4」に対する考え方と同じ）

検討事項（１）標準判定式が前提とするネットワークの範囲

検討の視点 1 2（設備利用部門コストの算定方法）

- ✓ 設備利用部門コストについては、2月答申で「二号基礎的役務の提供に最小限必要なものに限定すべきであり、販売促進費等の競争対応費用を除くことが適当」との結論の方向性が示され、現在、「交付金・負担金の算定等WG」において議論が進んでいる。
- ✓ 一方で、この研究会では、コスト算定に計上する（上記WGで適当と今後示される）しかるべき営業費用などを実際にどのように町字単位の一回線当たりへに換算していくのか、その手法を考える必要。

弊社意見

- 設備利用部門コストについては、現在、コスト算入する営業費用の範囲について「ブロードバンドサービスに関するユニバーサルサービス制度における交付金・負担金の算定等に関するWG」において検討されているところですが、10/13に開催された第3回の同WGで弊社が主張したとおり、販促費、宣伝費等の競争対応費用は、設備部門コストの原価から除外する必要があると考えます（ブロードバンドのユニバーサルサービスを国民に訴求するための費用については、基礎的電気通信役務支援機関（TCA）が行う周知・広報費用として計上されるべき）。
- なお、実態として町字単位でかかる営業費用（競争対応費用を除く。以下同じ）が異なる場合があったとしても、これらの事情は事業者毎に異なると考えられるため、区域指定モデルにおいて、営業費用の地域差を反映させることは馴染まない（＝平均的な一回線当たりのコストで算入）と考えます。

(2) 標準判定式を構築するために必要となる入力値

検討事項（２）標準判定式を構築するために必要となる入力値

検討の視点 13

- ✓ 各部門で算出されるコスト（投資額）は、「設備区分」別の年間コストに換算する必要がある。例えば、年間の減価償却費は、投資額を「経済的耐用年数」で除することで算出される。この経済的耐用年数といった一定の係数をあらかじめどのように設定するか。
- ✓ また、LRICモデルをアクセス回線部門に活用・流用する際は、このモデルが光通信基盤のネットワークを想定したものになっていない（電話ユニバのためのものである）ため、このモデルが用意する入力値の一部（主なものは次表参照）を今回新たなものに置き換える必要がある。「ネットワーク全体のコスト」を算定するに当たって、これら入力値をどのように設定するか。

弊社意見

- 経済的耐用年数は同じ設備であっても事業者によって異なることが想定されるため、例えば、交付金を受けることを希望する事業者からヒアリングを行い、そのヒアリング結果を元に、法定耐用年数を採用とするか、各社の経済的耐用年数をベースに検討した標準的な経済的耐用年数を採用するのかについて、検討するのが良いと考えます。
- 今回新たなものに置き換える必要がある入力値については、光通信基盤のネットワークを想定した入力値の提案・公募を行った上で、その提案・公募の結果を受けて検討するのが良いと考えます。
- なお、入力値の提案・公募の結果が区域指定モデルのコスト算定に反映されることを踏まえれば、入力値の結果によって区域指定が頻繁に変わるような状況は、継続性の観点から好ましくないことから、例えば、入力値の入れ替えは3年毎に行う等の整理が考えられます。

(参考) 地域事情に応じた耐用年数の違いについて

前回会合での相田構成員・北口構成員からのご質問

- ✓ 今回は区域指定モデルということなので、特に耐用年数が地域ごとに同じなのか違うのか。山の中の電柱などが風の影響で倒れやすいとか、海岸では塩害で早く錆びやすいとか、(中略) 地域差をどれくらい考慮する必要があるのか。(相田構成員)
- ✓ 除却損について、エリアによってどれくらいのオーダで異なるかの大体の数字は出てくるものなのか。2倍も10倍も違うものなのかといった感覚を知りたい。(北口構成員)

弊社意見

- 弊社の場合は、自己設置でFTTHを提供しているのは都市部だけであるため、お役に立てず恐縮ですが、ご質問の山間部や沿岸部との差異についての有益な知見は持ち合わせておりません。

「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

